

ESRI User Conference 2017 体験記

筑波大学大学院 吉田崇絃

○はじめに

この度は、栄誉ある Young Scholar Award が授けられましたことを心から嬉しく存じます。この場をお借りして、これまで私の研究・活動に関してご指導・ご助言あるいはご協力いただきました方々、さらには今回の受賞に際してお世話になりました ESRI, Inc. および ESRI ジャパン(株)の皆様に、心から感謝の意を表します。

地理情報システム(GIS, geographical information systems)に関する世界最大の祭典 ESRI User Conference (UC) に招待参加させて頂きました。ArcGIS とその関連するアプリケーションは、私にとって欠かせない強力な研究協力者であるとともに、地理情報を自在に表示・編集・管理する上での最高の遊び相手です。日頃、楽しく利用しているアプリケーションの生みの親である Jack Dangermond 氏に表彰頂くというエキサイティングな機会を得たことは、大きな喜びとなりました。また、世界中から集まった GIS geeks と出会えたことは、大きな刺激となりました。

○参加前日まで

UC に参加する前週に英国で開催された空間統計学会(Spatial Statistics Society)への参加を予定していたため、私は英国から UC に向かいました。旅程の都合、ロンドンで一日の時間が空いたため、地理情報科学や GIS に関連したメモリアルな場所であるグリニッジ天文台と SOHO 地区を訪れました。グリニッジ天文台ではスマートフォンを頼りに本初子午線を探し(図 1 左)、SOHO 地区では空間疫学の父と呼ばれる John Snow にあやかったパブに行きました(図 1 右)。



図 1:グリニッジ天文台(左)と John Snow Pub(右)

○会場 : San Diego Convention Center

San Diego Convention Center は、国際的な見本市も開催可能なほどの展示施設で、その大きさにまず圧倒されました(図 2 左)。今回の UC には世界各国から 16,000 人以上の参加者があったそうですが、まだ会場に余分があるほどです。会場は空調が完備されており、長く屋内にいると肌寒く感じるほどでした。また、セッションの合間に動き回るには、歩きやすい靴で参加するのが好ましかったです。

会場内にはグッズ販売スペースがありました(図 2 右)。初日の基調講演後は特に混んでいて、GIS や地図に関連したプリントのある Tシャツやパーカーは早々に売り切れとなっていました。2 日目以降、ポスターや書籍などはすぐに購入できるほどにはなっていました。



図 2:UC の会場とグッズ販売スペース(初日の様子)

○基調講演

Jack Dangermond 氏が基調講演の中で示した将来の社会のビジョンや GIS をスマートに活用した事例は、いずれも明るい未来を想像させるものでした。Dangermond 氏が映る複数のスクリーンが配置された大きな会場(図 3)に集まった参加者が将来のビジョンを共有することで、氏や GIS ユーザーが思い描く未来が早くやってくる、そんな雰囲気を会場から感じました。また、講演の中でのデモンストレーションの多くが ArcGIS Pro を利用したものであることが印象に残りました。直観的な操作性に優れていて、凡例における境界値の設定にその特徴がよく表していました。



図 3: 基調講演の会場

○ポスターセッション

マップギャラリーの会場の一角に、Young Scholar Award 受賞者のポスターが紹介されていました(図 4)。ポスター SESSION では、この一角に各国の受賞者が集っていたため、研究や活動内容を紹介しあうなどの交流が出来ました。ポスターの中では、City Engine を利用した都市ランドスケープの紹介が目を引きました。テクスチャの付いた 3D ポリゴンデータを簡便に生成できる環境を利用して、どういった研究が成り立つか考えさせられました。



図 4: マップギャラリーの様子

○オーラルセッション

研究発表から ESRI 製品の機能紹介までと、各セッションのテーマは幅広いものでした。並行して 30 を超えるセッションが開かれているため、参加セッションの選択には迷いましたが、そんな不安を解消する ESRI events という無償のモバイル用アプリケーションがとても便利で重宝しました。このアプリケーションでは、参加セッションの時間割を作成でき、各発表の概要もワンタッチで確認できました。また、各発表にコメントといくつかの指標に基づいた段階評価ができました。質疑の時間が限られた中で、効率的にフィードバックを行うことできる環境となっていました。

Young Scholar Award 受賞者には、事前に ESRI, Inc. の教育担当の方から、参加推奨セッションの案内がありました。そのうちのひとつである GI science セッションでは、地理情報科学における主要な学術誌である *Transactions in GIS* において、今回の UC に向けて編集された Special Issue (Volume 21, Issue 3, pp. 429–631)

に採録された論文の発表がありました。ネットワークデータを用いた機能領域(functional regions)の設定に関する発表とOpen data のコストに関する発表が特に興味深いものでした。

○企業展示

ESRI 製品の機能紹介と体験(図 5 左)に加え、体験型の仮想現実(Virtual Reality) 製品の紹介(図 5 右)などがありました。スタートアップ企業をまとめた一角が会場にあり、GIS を活用した新しいコンセプトの製品が展示されていました。今後、位置情報を高精度に測位可能な環境と次世代の移動通信システムが実現すると、GIS の活用がより一層進むことが期待されています。拡張現実(Augmented Reality)や複合現実(Mixed Reality)といったまるで SF 世界の実現への GIS の展開も楽しみです。

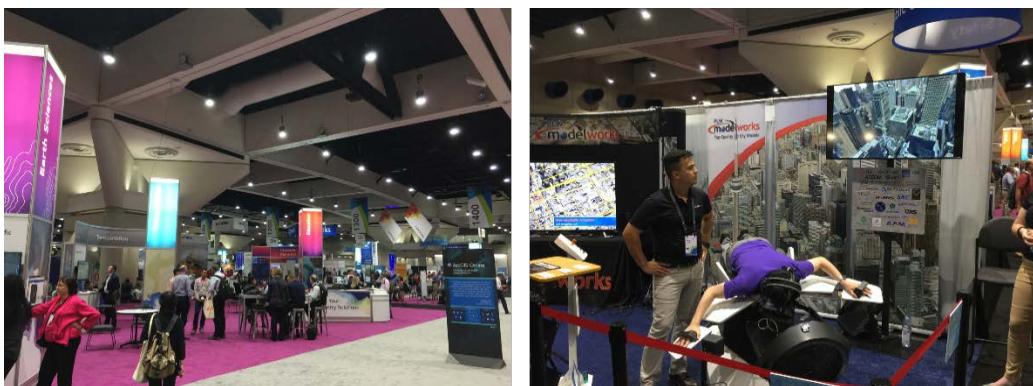


図 5:企業展示の様子

○授賞式

授賞式会場の前に集合し、事前に表彰盾を受け取りました。授賞式では、Dangermond 氏が登壇され、まずははじめに Young Scholar Award 受賞者に対して言及があり、大変光栄でした。その後、氏との写真撮影が行われました(図 6)。



図 6:Jack Dangermond 氏との写真撮影

○おわりに

期間中は UC だけでなく、ウェルカム・パーティや教育機関向け懇親会、アジア・パシフィック・パーティなどに参加し、朝から夜まで GIS や地図にどっぷりと浸かる日々を過ごさせて頂きました。UC に参加されている企業の方や ESRI ジャパン(株)の方からは、GUI (graphical user interface) で地図を表示したり、編集したりできるようになるためのシステムに関するお話を伺うことができました。現在は、そうしたシステムがどのように処理されているのか特に意識せずとも、GIS を操作することができます。Dangermond 氏が基調講演で示された未来社会の明るいビジョンに向けた GIS の役割を考えるとともに、時折立ち返り GIS の基盤である技術的側面にも目を向けることができたらと思います。UC に参加して得たことを糧として、今後一層 GIS に関する研究に取り組んでいきたいと思います。改めまして、日頃、ご支援を頂いている方々、そして、今回の受賞に際してお世話になりました ESRI, Inc. および ESRI ジャパン(株)の皆様に、心から感謝の意を表します。